

【学校の教育目標】  
進んで学び たくましく 未来を拓く子

【児童の実態】

- 学習の進め方が分かり、意欲的に問題解決や願いに向けて取り組むことができる。
- 自ら問題を見つけたり、問題解決を行ったりする意識や姿勢が見られる。
- 問題やめあてに対して、生活経験や既習事項と関係付けながら、自分なりの考えをもち、言葉や図などで表現できる。
- 解決の見通しをもって粘り強く試行錯誤し追究する姿に弱さがある。
- 自分が考えたことを、自信をもって伝えることに弱さがあり、仲間と考えを深め合うことが弱い。
- 追究する過程で、自己の学びを振り返って、よりよいものになろうとする姿に弱さがある。

【目指す児童の姿】

- ・自然事象から問題を見だし、見通しをもって粘り強く追究する姿
- ・問題解決の過程の中で、柔軟に発想し、生活経験や既習事項と関係付けながら、根拠をもって予想などの考えをする姿
- ・仲間と交流しながら、自分の考えを広げたり深めたりし、より確かな結論やよりよい生活を求める姿
- ・問題解決の過程で、自分の考えを振り返って、より妥当なものに変容させる姿。
- ・学んだことを身の回りの自然事象に適用したり、別の事象に当てはめたりして学びを広げようとする姿



研究主題 **生き生きと追究する児童の育成**



牛牧小学校の「生き生きと追究する」姿

【理科】

解決の見通しをもち、追究の過程を振り返りながら粘り強く追究する姿

【算数】

既習事項を活用して具体物などを用いた数学的活動に粘り強く取り組む姿

【特別支援】

活動への見通しをもち、持てる力を発揮しながら粘り強く学ぶ姿

研究仮説

自然の事物・現象から自ら問題を見だし、問題解決の過程において各学年で段階的に問題解決の力をつけることで、生き生きと追究する児童の姿が生まれるであろう。

研究仮説

既習事項から見出した算数の問題を、具体物などを用いて解決したり結果を確かめたりする数学的活動を行えば、生き生きと追究する児童の姿が生まれるであろう。

研究仮説

個に応じた課題設定や環境を整えることで活動の見通しをもつことができれば、意欲や自己肯定感を高め、生き生きと活動する児童の姿が生まれるであろう。

【研究内容1】単元構想の工夫

単位時間の役割とつながりの明確化

単元を通して児童に付けたい力を育成する。そのために各単位時間の役割とつながりを明らかにし、単元構想図を作成する。作成する過程で、各単位時間の指導のポイントなどを学年等で共有する。

【研究内容2】単位時間の指導過程の工夫

児童の疑問を引き出し、粘り強い追究を促す指導の工夫

「ワクワクの5分」で疑問を生み出す。各学年の重点となる問題解決の力を育む指導の在り方を具体的にし、4学年全体で生き生きと追究する児童の姿を生み出す。

「ワクワクの5分」で課題を把握し、解決の見通しをもつ。具体物等を用いた数学的活動の在り方を研究し、生き生きと追究する児童の姿を生み出す。

「ワクワクの5分」で活動の見通しをもたせる。自己の課題を自覚し、主体的に取り組むことで一人一人がもてる力を確実に伸ばす。